

民報 藤島

2023年 6月 4日

第 1401号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉦一（宝徳）
Tel.0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」と検索で入力。

発行経費にカンパをお願いします。民報配布者にご連絡下さい
(月200円程度)
5月 26人 25,220円
4月 41人 44,640円

小澤アイ子

『詩集 わたし 地球人』

小澤アイ子『詩集

わたし 地球人』(光陽出版社)が、平和と希望を心底から歌いあげています。

その内2篇を紹介し
ます。

「九条」の地球を

ロシアにも

「九条」あつたら

朝鮮にも

「九条」あつたら

アメリカにも

「九条」あつたら

中国にも

「九条」あつたら

世界中 どの国にも

「九条」あつたら

他国の人を 殺さないし

他国の人から 殺されない

今日の営みを 壊さないし

明日の生活が 壊されない

ウクライナも 戦場にならない

子どもは 子どもらしく

若者は 若者らしく

老人も 老人らしく

笑顔の今日を 生きられる

幸せの明日を 迎えられる

花は それぞれ 美しく

木々は 豊かに 繁り

川の水は 暮らしに寄り添って 流れ

海は 命の恵み 育んで

世界を つなぐ

「九条」の地球を!

税金

せっせ せっせ 働いて

納めた 税金

で「人殺しの爆弾」造る……

ガス 電気 水道 テレビを観ても

取られる 税金

で「敵国攻撃」準備する……

出かけて 食べて 楽しんで

あれ これ 消費税

で「アメリカ製兵器」爆買いする……

——私が生まれる前

軍事に注ぎ込んだ 税金

で 中国 韓国 近隣諸国を 侵略

他国の生活を奪い 殺した

——私が子どもの頃

アメリカに反撃され 戦時国債

で 国民は守られなかった

町は壊され 焼かれ 殺された

戦後 取り戻した日常 だけど

アメリカ軍は ずっと居つづけ 税金

で 基地は拡充 戦闘訓練の毎日……

日本は今「民主主義」の国

政治は多数決で行われる 税金

で 軍備増強 米軍基地強化も

数次第……

「九条」に支えられ 生きながらえて

葬儀も近づく老人の私 最後の税金

まで「戦争」の資金に……

命 終わる日まで

村の四季

47

鈴木重雄(八色木)

倉入れ(つづき)

藤島駅前にも全農山形

藤島倉庫がある。通称

山居倉庫と呼んでいる。

これは、羽越線が余目
鶴岡間開通と共に建
設された。

この農業倉庫は、全

国屈指の大規模な倉庫

で、近隣町村の倉庫から

搬入された米をここに

に集積し、藤島駅から

貨車で消費地に出荷さ

れる。八栄島、藤島地

区には自前の倉庫がな

いので、この倉庫に入

庫した。

入庫最盛期になると、

倉庫人夫が不足するの

で、農協男子職員は一

日の勤務を終えると、

米背負いに動員される。

米は倉庫の下屋に3

列に並べ、1俵1俵棒

秤りで計量され、検査

を終えると等級が付けられ、女衆が「これは1等米だ、トッコイシヨ」と声を張り上げ、男衆の肩に担がせた。

男衆は大小2本の手かぎを巧みに操り肩のせ、何本もの歩み板(巾30cm位)をゆさゆさと渡って、上へ上へと梁の天井裏まで積んでいく。

明日の入庫まで積み終えるには、どうしても人夫が足りない。そこで入庫の終わった若者を雇い、マンボウと言って一回毎に計算して賃金を払い、翌日の入庫に支障ないように対応した。

今はライスセンターやカントリーで1斗入の容器に変わった。



悲願の『村山俊太郎・ひで顕彰碑』建立

『村山俊太郎・ひで顕彰碑』除幕式が5月24日、天童市の村山家菩提寺・来運寺で行われました。

石川勝雄・佐藤安太郎さん（写真左上）をはじめ、大高全洋・敦子ご夫妻、長南厚・斎藤英夫さんら『民報』読者が参加され、大高全洋さんは、祝賀会で乾杯の音頭をとられました。

顕彰碑は村山家の墓と一緒の地に建てられました。



写真で碑の前に立つ。中央瘦せ型の長男・宏さん、その左が長女・せつさん。

ひと

村山俊太郎・ひで夫妻

青山 崇

終章 大地とともに

「庄内の若い農民

佐藤さん」①

庄内の若い農民佐藤さんは、「権力に奉仕させられてきた農民の歴史に矛盾や怒りを感じ

てきたぼくは、どうし

ても農民解放の道に教

育の問題を正しく位置

づけなければならぬと

考えていました。村山俊太郎先生たちによって、その闘いは始

められてきていたのに驚きました。

北方性教育運動とは、ぼくたち農民と労働者に捧げられた教育であったことを知って感動しています。

そして村山俊太郎著作集をもとにして「農民と教育」というテーマで学習会をもちたいと思っています。」と長い便りをくれた。

ひでは、1959（昭和34）年4月東根市議会議員に初当選し、以後地域農民などとの関係も深まっていた。

そのような時1964年9月、剣持清一の詩による第一回県農民大学のおさそいを受け喜んで参加している。

「庄内の若い農民佐藤さん」に出合い、いつも長い手紙をもらおう。

一方「庄内の若い農民佐藤さん」を知っていた私は、当時の農村青年たちは東根までい



信頼できるものに

何かで読んだのだが、名字は、帯刀を許された武士だけでなく、落語に出てくる熊サン・ハツアンにもあったんだそうです。明治政府になって、自分の名前を役所に届け出るようにと御触れを出したが、国民は応じなかったんだ。今の時代は、最高2万円になるからと誘導するんだらうが、国が戸籍を作ったという。それは徴兵の為に、それで外国との戦争の時代に入ったという。

▲今なら、ボタン一つで必要な名簿は出てくるだらうから、マイナンバーカードはそれ以上のモノを国は期待していることになるだらうが、あちこちでドサクサが起きているという。今年の3月からと報道されているが、実際はもっと先だったという。どうしても隠せ

く汽車賃も持っていなかったで、「県農民大学に参加する庄内農村青年の会」をつくり、参加とカンパを広くよびかけようと提案した。

また「学習会」は、1967年1月、約東通り庄内労働大学準備会を開き、3年ほどで開校写真した。



なくなつて出したというのが実態だとか。

▲国には関係先が3つもあって、責任のタライ回しの状態。挙句の果てに、保険組合で間違いを探せダトさ。マイナンバーカードと言うが、自分じゃどうなっているか知ることが出来ないんだから、呼び名は止しくず。

▲ましてや、あれも繋げ、これを繋げばナンボになると繋げたナンボだが、誰かに入っていたナンテ許される？ 加えて、誰かの証明書が出てきたとか、医者に行ったら名前が出てこなかったとなつたら、何の為のもの？

▲こんなことを知りながら、衆議院は通したんだ。国は、人為的なミスだからと強行突破するようだが、人が人の為に使うものでしょうが。良識の参議院、採決を急がず、国民が納得するまで審議するべきですヨ。（石川）